

11 今後の展開と課題

- 11-1 今後の展開
- 11-2 今後の課題

11-1 今後の展開

- ・ 先端技術をまちの象徴とすることで、まちの利便性や魅力を更に高めていく。
- ・ 駅前を「先端技術のコアエリア」とし、まち全体が「先端技術のショーケース」となるように、大学、事業者、行政・公的機関が率先して取組を進めていく。
- ・ 先端技術を実施する事業者に対し、各団体は、フィールドを提供していく。



先端技術
コアエリア



先端技術の
ショーケースエリア

南大沢駅周辺
(商業、駅前広場等)

団地等
(都営・公社・UR)

11-2 今後の課題

今後の課題		対応の方向性
I 先端技術の社会実装化	(1) 持続可能な先端技術サービスの構築	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装に向けて、事業性や採算性確保のためのスキーム検討及び関係者巻き込み 多様な事業者が参画しやすいフィールドの提供と規制緩和の体制
	(2) 認知度の向上	<ul style="list-style-type: none"> スマートシティの各取組の参加を増やすための広報等の対策
II ICTインフラの整備	(3) 必要なオープンデータ・データプラットフォームの整備	<ul style="list-style-type: none"> 必要なオープンデータやデータプラットフォームの整理とデータ（個人情報含む）の安全な管理・運営方法の検討
	(4) 5Gの利用環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 都立大ローカル5Gの利活用の拡大 通信事業者等による5Gアンテナの設置促進
III 新たな事業体制の構築	(5) 新たな組織形態の構築	<ul style="list-style-type: none"> 産学公の適切な連携体制の構築 令和8年度以降の組織体の主体・構成員及び組織形態 新たな先端技術を取込むことができる柔軟な体制の整備
	(6) 必要な運営資金の確保	<ul style="list-style-type: none"> 産学公による適切な役割分担をもとに、必要な事業負担スキームを構築